

JPCOARスキーマによる 学術成果流通の向上

～オープンアクセス方針策定の広がりをうけて～

千葉大学附属図書館 利用支援企画課

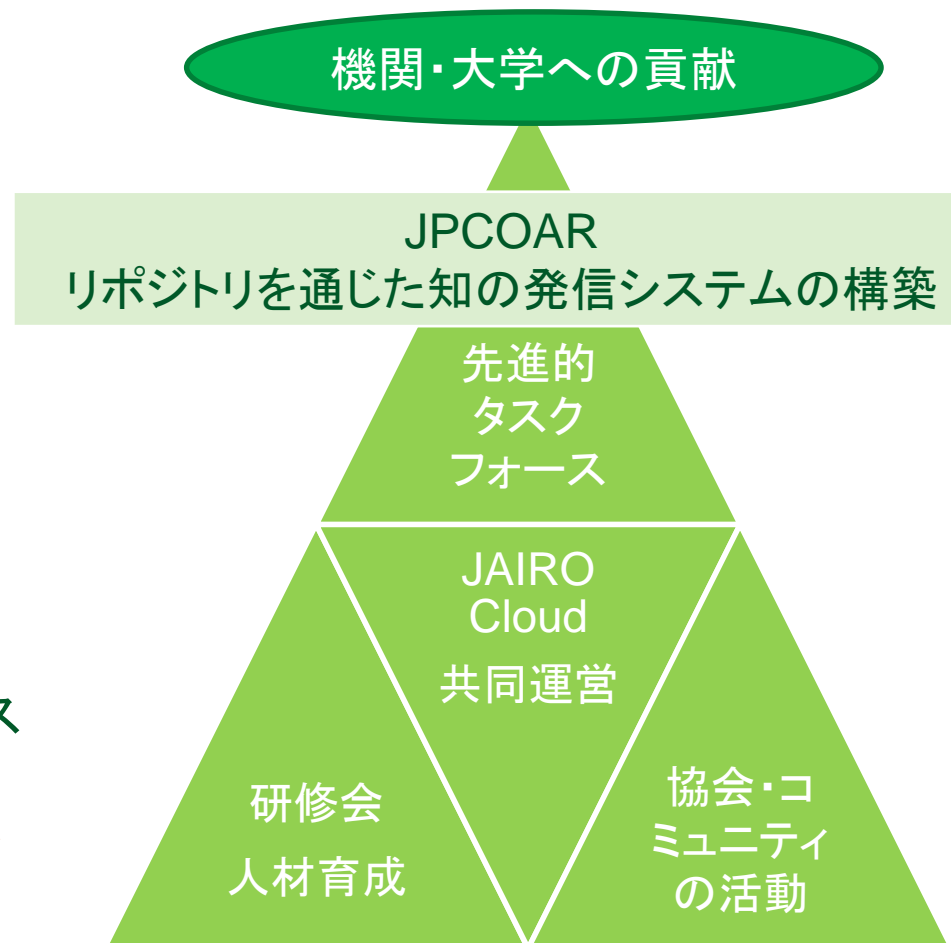
JPCOAR運営委員

高橋菜奈子

2018年6月28日 専門図書館協議会全国研究集会@東京ウィメンズプラザ

JPCOARとは？

- オープンアクセスリポジトリ推進協会
 - 2016.7に設立
 - 参加機関 558機関(201805現在)
 - 目的
 - リポジトリを通じた知の発信システムの構築
 - リポジトリコミュニティの強化
 - 活動
 - 常設の作業部会
 - 課題解決のためのタスクフォース
 - JAIRO Cloud共同運営
- ⇒我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資する活動を展開



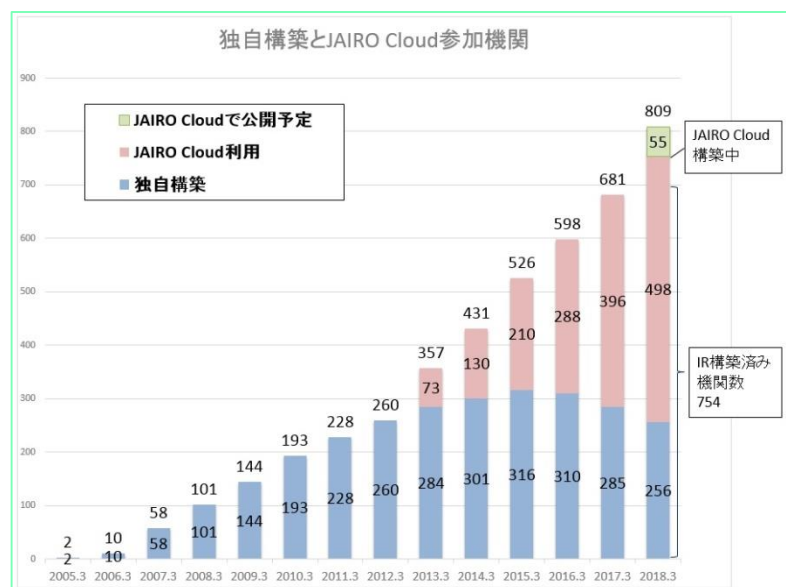
機関リポジトリをめぐる状況

機関リポジトリ構築数

- 754機関が構築 (2018年3月末現在)
- 研究成果の発信プラットフォームとして定着

役割の変化

- オープンアクセス
 - 学術雑誌論文へのアクセスの保証: GreenOA⇒GoldOAの登場
 - 論文のOA⇒研究データの共有と公開
- アカウンタビリティ
 - 大学の研究成果の発信(紀要雑誌出版、学位論文公開)⇒研究成果の分析へ
 - 公的資金への説明責任⇒オープンアクセス方針の明示



オープンアクセス方針に関わる内外の動向

• 米国

- NIH : Public Access Policyの制定(2003年)
- NFS : 著者支払いモデルによるOA(2011年)
- OSTP指令 : 政府機関による助成の成果は出版後1年以内にOA(2013年)

• 欧州

- Finch Report : 公的資金による研究は著者支払いによるOAを支援(2012年)
- ECのオープンアクセス方針 : EUの助成Horizon 2020 の成果はOAJまたはリポジトリでOA(2012年)

• 日本

• 文部科学省

- 学位規則の一部を改正(2013年3月)
- 学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)(2016年2月)

• JST

- オープンアクセスに関するJSTの方針(2013年4月)
- オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針(2017年4月)

• JSPS

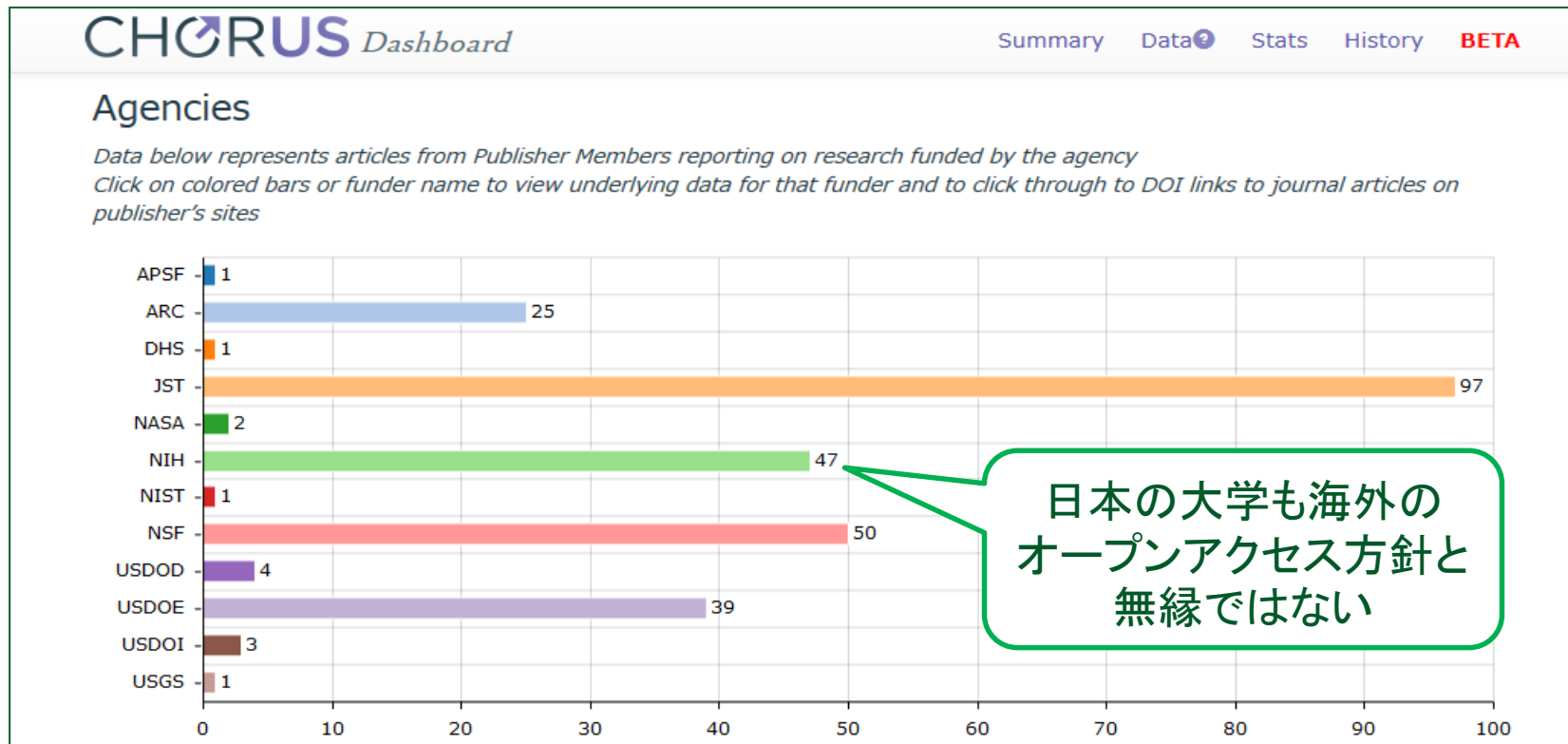
- 独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のオープンアクセス化に関する実施方針(2017年3月)

参考)

千葉大所属研究者の論文の助成情報

- CHORUS Chiba Dashboard

- <http://dashboard.choraccess.org/institutions/chiba#/summary>



機関のオープンアクセス方針

2006.4	岡山大学学術成果リポジトリ登録要項	2016.4	名古屋大学オープンアクセスポリシー
2007.5	JAIST学術研究成果リポジトリ運用指針	2017.1	神戸大学オープンアクセス方針
2007.11	北海道大学学術成果コレクション運営方針	2017.2	東京外国語大学オープンアクセス宣言 オープンアクセス方針
2012.9	名古屋工業大学学術機関リポジトリ運用指針	2017.12	国立極地研究所オープンアクセス方針
2015.4	京都大学オープンアクセス方針	2017.10	一橋大学オープンアクセス方針
2015.11	筑波大学オープンアクセス方針	2018.2	横浜国立大学オープンアクセス方針
2015.12	国際日本文化研究センターオープンアクセス方針	2018.3	東北大学オープンアクセス方針
2016.1	九州大学オープンアクセス方針	2018.4	OIST機関リポジトリに関する規則
2016.1	徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針	2018.4	金沢大学オープンアクセス方針
2016.3	千葉大学オープンアクセス方針	2018.4	大阪府立大学オープンアクセス方針
2016.4	公立大学法人大阪府立大学オープンアクセス方針	2018.5	島根大学オープンアクセス方針
2016.4	東京歯科大学オープンアクセス方針		

OA方針に関するJPCOARの取り組み

• OA方針策定ガイドライン(改訂版)

- URL: <http://id.nii.ac.jp/1458/00000043/>

第1章 OA方針の策定・実施

策定・実施のプロセスとアクションを提示

第2章 OA方針の構成要素

検討すべき点や、条文の記入例

付録1 実施計画例

付録2 OA方針雛形

付録3 オープンアクセスとは

付録4 ROARMAPの登録手順

• OA方針リンク集

- URL: https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53

• OA方針策定機関実態調査報告書(2018.2)

- OA方針策定済みの15機関へアンケート調査結果
- URL: <http://id.nii.ac.jp/1458/00000042/>

次なる課題（OA方針の評価・検証）

- 自機関の研究成果はオープンアクセスになっているのか？
 - OpenAIRE
 - EUから助成を受けた研究成果をオープンアクセスで提供するリポジトリから、データを取得し、連携したサービス
 - <https://www.openaire.eu/>
 - CHORUS
 - 米国政府等から助成を受け、CHORUS加盟出版社が出版した論文が出版社サイトでOAとなり、モニタリング可能
 - <https://www.chorusaccess.org/>
- 検証のために必要な情報
 - 所属の著者の情報
 - 発表された論文の情報
 - 研究成果のファンドに関する情報
 - オープンアクセスに関する情報

JPCOARスキーマの策定の考え方

• 基本方針

- 機関リポジトリのメタデータの標準仕様であったjunii2を改訂し、汎用性の拡大や相互運用性の向上を目指したメタデータスキーマを策定
- URL: <http://id.nii.ac.jp/1280/00000210/>
 - オープンサイエンス・研究データ対応
 - オープンアクセス方針策定への対応
 - 識別子(論文ID,著者ID等)の活用
 - 国際的なデータ流通の強化

• JPCOARスキーマの公開

- 2017年10月に公開
- URL: <http://id.nii.ac.jp/1458/00000024/>
- ガイドライン: <https://schema.irdb.nii.ac.jp/>

JPCOARスキーマによる情報流通の向上

• JPCOARスキーマ 新規追加要素

- アクセス権(embargoed access • metadata only access • open access • restricted access)

- APC

- 助成情報(助成機関識別子、助成機関名、研究課題番号、研究課題)

• 識別子の入力

- 論文の識別子(DOI / HDL / URI)

- 作成者／寄与者の識別子(e-Rad, NRID, ORCID, ISNI, VIAF, AID)

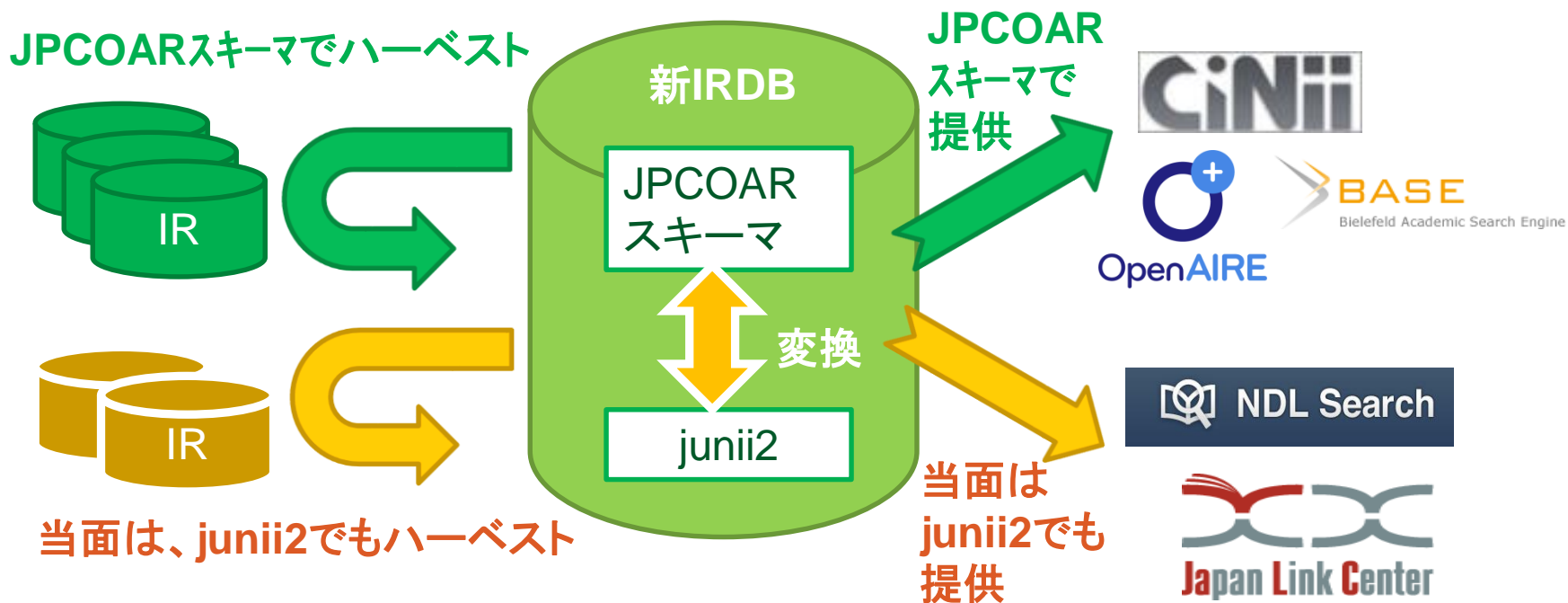
- 所属機関の識別子(kakenhi, ISNI, Ringgold, GRID)

- 助成機関識別子(Crossref Funder, GRID, ISNI, Other)

• OpenAIRE等の海外とのデータ連携も可能

- ⇒ 自機関の成果の分析にも利用できる

Junii2からJPCOARスキーマへ



①各機関リポジトリからIRDBに
メタデータをハーベスティング

②各種のサービスにデータを流通

各機関リポジトリに入力したメタデータを流通させるための規格
通信プロトコルはOAI-PMH
新IRDBでは、当面、junii2とJPCOARスキーマの両方で流通させる

今後のスキーマ普及・適用に向けて

・JPCOARスキーマを、NIIが新IRDBに実装

スケジュール	
現在実施中	新IRDBによる1回目の全件ハーベスト
2018年7月下旬～ 9月下旬	各機関へハーベスト結果レポートを送付、 新IRDBへのログインアカウントを提供
2018年7月下旬～ 10月下旬	各機関によるエラーデータの確認と修正
2018年10月	新IRDBの定期ハーベスト開始（現行IRDBと並行稼働）
2019年3月	現行IRDB停止

・各機関が行うこと

- ・ JPCOARスキーマに対応したシステムへの変更
（JAIRO Cloudは2019年度以降、順次対応予定）
- ・ 新規データ項目の入力業務フローの整備
- ・ 既存のデータのクリーニング

研究発信力強化～今、図書館ができること

全国研究集会第4分科会のテーマへの提案

機関としてのオープンアクセス方針の策定

自機関の研究成果の状況把握

メタデータのJPCOARスキーマ対応

論文識別子、著者識別子の普及

論文以外のコンテンツ(研究データ)への対応検討